



円安は海外旅行の減少を招くか

2012年末の政権交代をきっかけにリーマンショック以降続いてきた円高局面に変化が起きています。円安はインバウンド促進にはよい知らせですが、反面で海外旅行需要に水を差すようなものとなるおそれはないのでしょうか。過去のデータを読み解くことで、この問いに答えます。

一般論として為替レートの変化は海外旅行需要に影響するかと問われれば、その答えは「YES」でしょう。図1はこの10年間のウォン/円レートと韓国への日本人旅行者数の推移を示したのですが、ウォンが高くなった2005年から2007年にかけては旅行者数の減少傾向が続き、リーマンショックを経て旅行者数が増えた後も、ウォンのレートの微妙な浮き沈みと旅行者数の増減の間には割合はつきりとした運動が見られます。ところが海外旅行者の総数と円/USDのレートをと長い期間で比較した図2では為替レートと旅行者数の間にはあまりはつきりとした運動は見られません。これについてはUSDだけだけでなくユーロや元、ウォン、オーストラリアドルなど、他の通貨も考慮に入れるべきかもしれません。しかし筆者はそもそも海外旅行の総需要の変化を為替レートの変動によって有効に説明するのは難しいだろうと考えています。個別のデスティネーションでは説明力があるとしても海旅全体では為替以外の様々な要因が影響力を持つからです。

円安は海旅総数の減少に結び付きにくい？

図3は図2で示した円/ドルレートと旅行者数の関係を、横軸を為替レート、縦軸を旅行者数とするグラフで表現しなおしたものです。このグラフでは円高と旅行者増が同時に進むとグラフの線が右上へ動き、円安と旅行者減が同時進行すればグラフの線は左下へと動きます。実際に80年からスタートしてだんだんと右上へと動いて行く線を目で追って行っていたら、右上へと大きく動いた部分は多いのに、左下へ動いたところはほとんどないことがお分かりになると思います。このグラフから円/ドルレートと海外旅行者総数の関係について次のようなことが言えるのではないかと思います。

「円高（対USDドル）と旅行者総数増の相乗的な関係は顕在化しやすい反面、円安（同様に対USDドル）は単独では旅行者総数の減少に結び付きにくい。」
為替レートは海外旅行市場に影響する

黒須宏志
旅行市場動向のリサーチャーとして講演・寄稿などで活躍中。公益財団法人日本交通公社の主任研究員。1964年生まれ。

要素のひとつではあるが、円安になったからといって、それが直ちに旅行者心理に影響するかなんかの言説は明らかな誤りであり、むしろ業界人としてはパッケージ商品などの提供を通じ、業界が激な為替変動などの外部環境変化を和らげる働きをしていることを、胸を張って主張すべきだと考えます。

図1 ウォン/円レートと訪韓旅行者数

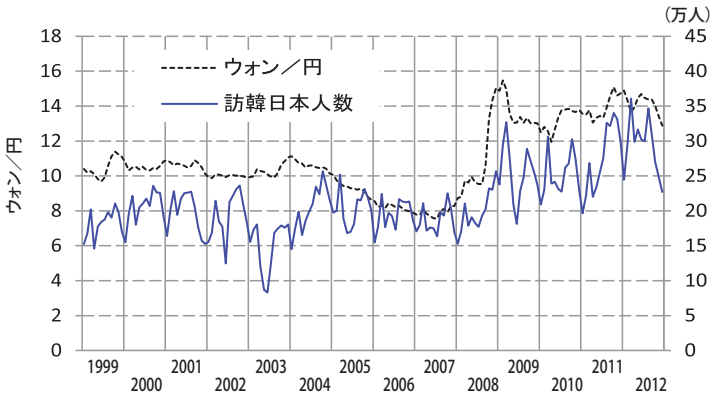
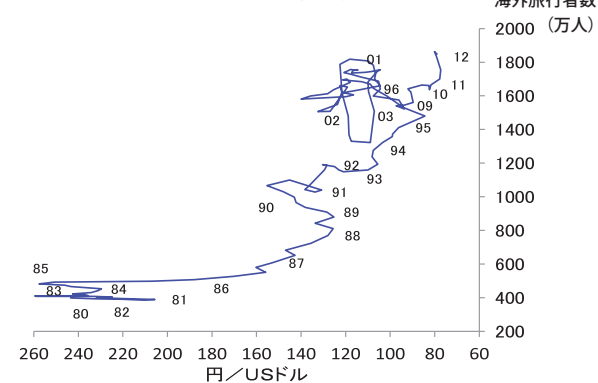


図3 円/USDレートと海外旅行者数長期推移



(注)四半期ごとの数値をプロットしたもの、旅行者数は移動年計の値を用いている

図2 円/USDレートと海外旅行者数

